

文化庁「平成25年度 劇場・音楽堂等活性化事業 (特別支援施設)」に採択

特別支援施設とは

文化庁が「劇場、音楽堂の活性化に関する法律」の制定に伴い、その活性化と地域コミュニティの創造と再生を推進するため、実施する補助事業「劇場・音楽堂等活性化事業」。この事業の中でも、全国トップレベル15の劇場・音楽堂が支援される「特別支援事業」に、アーラが採択されました。

これは、わが国の実演芸術の水準を向上させる牽引力のあるトップレベルの劇場・音楽堂等が行う、国際的水準の実演芸術の創造発信・公演事業や人材養成ま

たは普及啓発事業に対して、文化庁が総合的に支援するものです。

今後5年間、音楽、舞踊、演劇等の実演芸術の創造発信や、専門的人材の育成、普及啓発が支援の対象となり、25年度は四七〇七十七万円が補助されます。

創造発信事業が評価

多くのワークショップやアウトリーチを行う「アーラまち元気プロジェクト」や、一流の俳優や演出家が、可児市で滞在制作をおこなうアーラコレクションシリーズをはじめとする創造発信事業などの取り組みが評価され、この採択につな

がったと思われます。

現在、特別支援施設としてサントリーホールや滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールといった名だたる劇場が採択を受けています。このような劇場とアーラが肩を並べること、また東海三県ではアーラのみであることなど、この採択には大きな意味があると感じています。

全国の名だたる劇場とともに、人口10万人の地域劇場であるアーラが採択をされたことは、この上ない喜びです。今後も明確な目的を持ち、皆さまに愛される劇場として運営していきます。皆さまの応援をよろしくお願いいたします。

Messages of Congratulations

アーラの皆様へ

この度、トップレベルのホールとして文化庁から指定されたと聞き、大変嬉しく、また一緒に活動してきた新日本フィルの一人として誇りに思っています。

これは我々が力を合わせて行ってきた市民の、町のためのための文化活動が正しかったのだと確信を持たせてくれるものです。

今後またお互いの力を合わせて、更なる発展があると信じております。



クリスティアン・アルミンク
(新日本フィル 音楽監督)

御縁はまだまだ

アーラが国の「特別支援劇場音楽堂」に選ばれたとのこと、館長兼劇場総監督の衛紀生さんとスタッフ、市民ボランティアの皆さんの努力の結果と心からお祝い申し上げます。

2009年夏、大阪公演中の僕へ衛さんから電話が入り、一度可児市の劇場を観に来てくれと誘われ、帰京の途中、名古屋で下車し迎えの車に乗り込んだのが縁の始まりで、2年後に清水邦夫作『エレジー』の舞台が生まれました。縁はまだまだ続く気配です…。



平 幹二郎
(俳優)

これからも果敢に

アーラが国の「特別支援劇場音楽堂」に選ばれたとのこと、心からお祝い申し上げます。これまでアーラが地域劇場として進めてきた様々な事業が評価されたと言うことで、地域拠点契約を結んで、アーラのいくつかの事業を共に進めてきた者として、大変喜んでおります。

立派な劇場がありながら、その劇場が地域住民のためにうまく機能せず、無用の長物と化してい

る地域劇場が全国に沢山あります。そんな中で、アーラは様々なプログラムを果敢に作り上げて、地域の人のために、地域の人と共に、地域ならではの劇場として、市民がひよいと出かけて、市民でいつもあふれる劇場になっています。

これまでの業績に甘んじることなく、これからも果敢に、全国の地域劇場のモデルケースとして邁進して欲しいと思います。



西川 信廣
(文学座・演出家)